

## 著者校正用チェックリスト

著者校正の段階において、以下に列記する見落としが散見されます。著者の責任において、隅々まで誤りがないか確認し、各項の左端チェック欄に☑を入れて**著者校正原稿とともに印刷所へ返送**して下さい。**校正が不十分な場合、論文の掲載が次号以降となることがあります。**

注) 筆頭著者が大学院生等の場合、指導教員もしくは担当責任者が、本チェックリストに基づく最終チェックを行った後、署名捺印して下さい。英文の投稿論文についても本チェックリストに準じて下さい。

論文題名：

筆頭著者	氏名	印
指導教員（責任者）	氏名	印

**投稿細則の箇所を文尾の（ ）に記します。**

### 1. 標 題

- 英文標題において、前置詞、接続詞、冠詞以外は単語の先頭文字を大文字とする。(II-1-(2))
- 単語と単語を - (ハイフン) で結ぶ場合、ハイフンの前の単語のみ大文字にするか、前後の単語を大文字にするかは、著者自身で判断して表記を統一する。

### 2. キーワード

- 英語はすべて小文字とする（キーワードの先頭文字を大文字にしない）。ただし、固有名詞は、先頭の文字のみ大文字とする。(II-2-(2))

### 3. 発表実績、会員の有無、著者の所属

- 共同研究者が会員でない場合、非会員とは記載せず、所属から書き下す。
- 英文投稿で会員と記す場合、JSAM Member, (←カンマを忘れないこと) 英文所属名・・・とする。
- 所属の英文表記に誤りがない。
- 郵便番号、電話番号に誤りがない。
- 著者の所属に異動があった場合の表記に誤りがない。(II-3(2) 例 1~2, (3) 例 1~2)
- Corresponding author の記載（電子メールアドレス等）に誤りがない。(II-3-(2) 例 1~2)
- 誤植がない（例（地名）：Hokaido, Sapporo etc.）。

### 4. 数式及び記号

- ギリシャ文字及びイタリック体等の指定に見落としがない。(II-6-(3))
- 本文中だけでなく、図や表に現れる記号にも注意を払う。
- 英数文字はすべて半角とする（上付き、下付き文字を含む）。
- 変数（ギリシャ文字を含めて）はイタリック体とする。
- 単位（m, N など）、関数（sin, log など）、数字（1, 2, 3 など）はローマン（正体）とする。
- 数字と単位の間には、半角スペースを入れること。%、℃、° についても同様とする。

### 5. 引用文献、参考文献

- 和文文献は日本語で、英語文献は英語で記す。(II-8-(1) 例 1, (2) 例 1)

- Reference ではなく References と記す。(II-8-(2))
- 英語表記における著者の姓と名の順序に間違いがない。(II-8-(2) 例 1)
- 西暦の挿入位置が正しい。(II-8-(1) 例, (2) 例)
- 雑誌 (英語表記) の場合, 著者名と論文タイトル標題は先頭のみ大文字とする。(II-8-(3) 例)
- 副題は, 削除する。
- 単行本 (英語表記) の場合, 前置詞, 接続詞, 冠詞以外は単語の先頭文字を大文字にする (雑誌の場合とは異なる)。(II-8-(6) 例 2)
- 雑誌出版社名は, 細則に従って記す。(II-8-(4))
- ASABE の引用は, Transactions of the ASABE とする。(II-8-(3) 例)
- 最後にピリオドを忘れずに付ける。
- 本文中の et al. の表記について (例 1 : Noki et al., 2003, 例 2 : MAFF., 2003) 上に示した「I」や「F」のあとのピリオドやカンマを忘れずに付ける。(II-8-(1))
- 連報で投稿して前報が最新号に印刷された場合, 次号以降の初校校正時には, その論文の発行年, 巻号, 頁を忘れずに記入する。(II-8-(2))
- 引用箇所あるいは参照箇所のページ番号を記す。(II-8-(1), (2))

## 6. 摘要

- 番号等を付した箇条書きについては, 左 1 文字空けずに書き始め, 2 行目からは行の左端をあける。文章の場合は, 行頭を左 1 文字空けて書き始める。(II-5-(4))

## 7. 図, 表, 写真

- 図中の単位表記方法 (数値軸に単位を書く等) に誤りがない。
- 図中の数値軸の単語に誤りがない。
- 図表中のキャプションの単語に誤植がない。
- 図表中のキャプションの英語表記は, 先頭の文字だけ大文字とする。(II-1-(2))

## 8. その他

### 1) 見出し

- 英文投稿の場合, 見出しの先頭の単語のみ大文字とする。(II-1-(2))  
例 1 : Experimental details, 例 2 : Results and discussion

### 2) 会社名

- CO.,LTD.ではなく, Co., Ltd.と記す。

### 3) 下線

- 英語の略語を説明する際に, スペルアウトした単語の先頭文字に下線を引かない  
例 1 : FEM (Finite Element Method), 例 2 : CFD (Computational Fluid Dynamics)

## 9. 英文要旨 (Abstract)

- ネイティブスピーカーによる添削を受けた証明書を同封する。(III-2-(2))

## 10. チェックリスト

- このチェックリストに, 署名捺印する。
- このチェックリストを, 著者校正終了後, 校正原稿とともに必ず印刷所へ返送する。